



## 風土計

2018・1・7

「門松は冥土の旅の一里塚  
めでたくもありめでたくもな  
し」とはとんちで有名な一休  
さんの狂歌。五十路いそぢともなる  
と「定年までの一里塚」とい  
うのが実感か。人生100年時代。お迎え  
が来るのはまだ早い▼就職する頃に「執行  
猶予4年。懲役38年」と聞き、なるほどと  
感心した。気楽に過ごせるのは大学の4年  
間だけで、卒業したら60歳までしっかり働  
けということだ。いつの間にか年金の支給  
開始が65歳になり懲役は5年も延びた▼残  
された「服役」期間で何ができるか、する  
べきかを考えた時に思い浮かんだのが「老  
後の初心」という言葉だ。お坊さんから教  
えてもらった。能Aの世阿弥が残したもので  
人生には節目①ごとに「初心」があるとい  
うのだ▼自分なりに解釈すると、「初心」と  
は今まで体験したことのない事態や試練を  
いかに乗り越えていくか、そのための備え  
のこと。「B」とは、その  
時の心構えを忘れてはならないということ  
だろう▼年を重ねるといろいろな面で無理  
がきかなくなるし、頭も固くなる。そうし  
た限界を克服するために時々に応じた工夫  
をして人生をどう生きるかを考えよとい  
う意味と理解した▼論語に「六十にして耳  
順Dう」という言葉もある。還暦までまだ時  
間はあるが、人の意見には素直に耳を傾け  
ることを年頭の「老後の初心」としよう。

(2018年1月7日付・岩手日報1面)

文章を読んで、次の問いに答えなさい。

1. 文章中の傍線①～③の漢字の読み方をひらがなで書きなさい。

① かいしゃく

② しれん

③ こくふく

2. 文章中の傍線Aは能を大成させた人物の名前である。この人物の名前の読み方をひらがなで書きなさい。また、この人物が活躍した時代を次のア～エから一つ選び、記号で書きなさい。

ア 奈良時代

イ 鎌倉時代

ウ 室町時代

エ 戦国時代

「世阿弥」の読み方：ぜあみ

活躍した時代：ウ

3. 文章中のBの欄に入ることわざを書きなさい。

初心忘るべからず

4. 文章中の傍線Cの論語の中には「温故知新」という孔子の言葉がある。この「温故知新」の意味を書きなさい。

例) 昔の事柄に学んで新しい知識を得ること

5. 文章中の傍線Dの「還暦」は何歳のことか書きなさい。

六十歳 ※60歳(才)でも可

6. 五十路となる筆者は、2018年の年頭の「初心」として、「人の意見には素直に耳を傾けること」と述べているが、あなたはどんなことを2018年の年頭の「初心」としますか。理由も含めて書きなさい。

省略

年 組 名前